

CL季刊誌講読所感

C. S.



はじめに

季刊誌春の号『おばさんがふたりで』に登場して頂いたSさんは市外へと移られてしまいました。Sさんにはお世話になってばかりでした。お返しも充分にできないまま会えなくなりました。コロナ禍が収まるまでは面会もできません。何年先になるのでしょうか。

次に成すべきことは。

面会が無理でも手紙は書けます。Sさんのご家族経由で私が作った小物を渡すこともできます。秋までに帽子を編んでプレゼントすると約束していたのでした。Sさんへの成すべきことは沢山あります。

Sさんの症状が重くなり、悲しいとか、淋しいとか、感情の相手をする余裕はありません。『コロナウィルスとCL』の冒頭でレイノルズ先生が書いて下さったように「それらの感情に気づくだけでいいのです」。

東日本大地震の後、病気の私は避難所に行くこともできませんでしたし、配給の列に並ぶこともできませんでした。飲み水や食糧は複数の方々が一斉に届けて下さり不足することなく過ごせました。中でも長期的に一番お世話になったのがSさんでした。お世話になってばかりでお返しができなかったことを考えると、この先の人付き合いに消極的になりそうです。ギブアンドテイクの対等な相互関係ではなく、病気の私は与えて頂くことばかりの迷惑な存在と意気消沈の状態になりそうでした。

『CL図書からの引用』P89の中で「ご迷惑ばかり。それは事実。だから自分に対して自信はあるはずがない」と書いてありました。おやおや。私だけではないのですね。と光が差してきました。迷惑をかけるばかりでお返しも充分にできない私は苦しいばかりですが、そういう感情は無視して次の成すべきことに向かうだけです。感情は台風の進路のように私にはどうすることもできないことですから。

のりこという名の冷蔵庫

新しい冷蔵庫が届く日の朝に10年間お世話になった冷蔵庫さんを感謝を込めてハグしました。「冷蔵庫さん、ありがとう。2匹の猫と一緒に新しいスタートを切った日からお世話になりました」冷蔵庫さんに名前を付けないでしまったのはCL的ではありませんでした。CLでは、物に名前を付ける、物に感謝することを教わっていたのに。

『CLからの提言-秘密を知らせる』のアドバイスに倣い、これから私の秘密をお知らせします。

『コロナウィルスとCL』の中の「9」で「修理業者の仕事がしやすくなる準備をします(周囲を片付けておくとか)」とのアドバイスを受け入れ、新しい冷蔵庫が届く日に3時間かけて周囲を片付けました。アレコレ移動したり、のれんを外したり、障子戸も外しました。大名行列も通れる広い通路が

でき満足していました。

到着が早くなると電話があり慌ただしい気配が始まりました。

これまでの冷蔵庫が運び出されると跡に猫の毛などのホコリの固まりがあり、それを掃除して新しい冷蔵庫を迎えました。作業は順調に進みます。と、配送の男性の額に天井からハンガーで干した私のババシャツの裾が触れました。『失敗！片付けるのを忘れてた！』イヤ、ことはもっと重大です。『ちょっと待って！ババシャツがあるということは、私の頭上には！えっ！』真上を見ると面積の小さいものが二種類干したままでした。

『何ということをして！』脱力しへたへたと床に座り込みそうになりました。1番に避けたい過ちです。3時間かけて片付けて広くした労力が全て無駄になった。穴があったら入りたい！などなど山のように押し寄せる感情は無視。

成すべきことに集中します。見上げるとヨレヨレなのが干してありますから、配送の男性二人と私は床だけ、床だけを見詰め事務的な会話を淡々と進めます。私一人になってからは「あ～あ、大失敗！」と言いながら移動したアレコレや、のれん、障子戸を定位置に戻す作業を行いました。

6年前から行政に書類を提出してきました。PCの前で吟味して、翌日印刷した書類を繰り返し、繰り返しチェックして提出しました。何ヵ月かして読み返すと必ず数ヶ所間違えていました。しかも初歩的なミスで。故に『間違えるのが私』と認識するようになりました。今回の赤面の過ちも『信じがたいミスをするのが私』と受け入れることにします。

『そうだ！冷蔵庫さんに名前を付けよう！』身の程を知り、驕らず、謙虚に行動する、ひとつひとつの行動を丁寧に堅実に行うことを思い出すような名前にしよう！

そういう訳で、新しい冷蔵庫さんの名前は、慎む子と書いて『のりこ』です

『忍びよるおとろえ』4/24の中で「見えても記憶に入らないときが出てきたにちがいない」と書いて下さいましたが、私にも同じ現象が行ったのだと思います。それで真っ先に片付けなくてはいけない物を吊るしたままにしたと。

『コロナウィルスとCL』の「30」には「歳を取った、不完全な自分を受け入れましょう」との提案がありました。赤面赤恥のミスをする自分を毛嫌いすることなく、63才の私にはこういうこともあると受け入れることにします。

誰もが変化している

春の号の中で、これからの生き方に1番『効く』と思われた一行は『CL図書からの引用』P102「どういう人という言葉はどれも正しくない、誰もが変化している」というものでした。つつい私は、知り合いに赤い人、青い人という単純なラベルを貼っていました。過去の行いだけで誰かにラベルを貼っていると不都合を招きそうです。変化を観察し、今その人に対して成すべきことは何と考え行動する必要を教えてくださいました。

コロナ禍と私

新しい生活様式のお陰で免疫系統の病気の私はなにかと生活しやすくなっています。

これまで素手で触りたくないと思っても、周りから「神経質な人」と蔑まれそうだからと我慢していた場面がありました。コロナ禍では堂々と手袋を使うことができます。うふっ。

或る集まりには1番のりし、誰にも見られないうちにテーブルと椅子を拭いておりました。拭いているところを見られたら「自分だけが清潔で周りの人はきたないと思っているんですか！」などと責められそうですから。それが、新しい生活様式では、責任者が道具一式を持って来て、参加者全員が消毒液で拭いてくれます。なんて楽になったこと！

万物は変化し続けるのですね。観察しなくては。(岩手県大船渡市)